

境内の整備計画と(一)報告

檀信徒の皆さまのお声をお聞きし、境内の改善に取り組んでいます。施主としてご寄進されたい方は寺務所までお申し出ください。長寿の報恩、感謝、回忌法要の記念に。それぞれに記銘し、三〇万円以上のご寄進は本堂の木札にもお名前を記し、末永く顕彰させていただきます。

駐車場の拡張

お盆やお彼岸時には、駐車場が足りず混雑していました。県道三八号線沿いに用地を確保し、駐車場を増やしましたので、混雑時はこちらをご利用ください。普段はP2を優先ください。



龍藏寺

古佛眼山



寺報（令和7年）冬号 年末年始のご案内

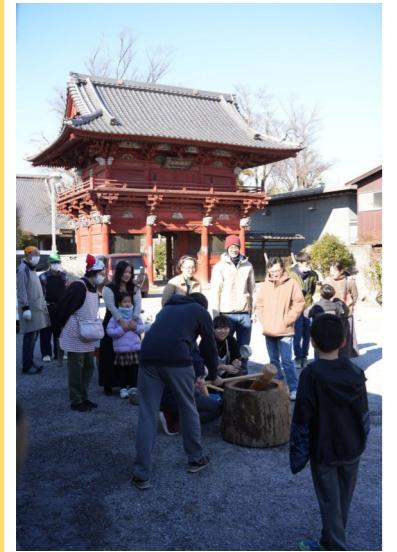
平末年台の二矣多

向寒の候、年末が近づき何かとご多用のことと存じます。檀信徒の皆様におかれましては、お変わりなくお健やかにお過ごしでしようか。顧みますれば、令和七年は、実に目まぐるしい一年でした。いろいろ批判も多かつた大阪・関西万博も開催してみれば大評判で、皆様の中にも未来の技術や海外の文化を体験された方もいらっしゃるのではないかと思ひます。またAの技術の急速な進化に目を見張る一方、世界に目を向ければ未だ各地での対立や不安が絶えない一年でした。まさに「諸行無常」、この世

このような激動の時代だからこそ、お釈迦様の「盲亀浮木の譬え」を思い起こします。広い大海原で、百年に一度だけ水面に顔を出す目の見えない亀が、漂流する一本の流木の穴に奇跡的に出会う。その奇跡のような瞬間より、人として生まれれる方が難しいという説話です。

技術がどれほど進歩し、世の中が便利になろうとも、この奇跡的に得た「いのち」を生きる私たちにとって、本当に大切なものは何でしょうか。A-1やロボットが人がやっている仕事をみんなやってくれるようになつた時、A-1や機械には決して真似のできないこと、人間が本当にやりたいこと、しなければならないことはなんなのか、今まさに問われているのではないかもしれません。と思ひます。

迎える令和八年が、檀信徒の皆様にとりまして、心安らかな幸多き一年となりますよう、阿弥陀様の御前にて心よりお祈り申し上げます。



令和七年八年の年末年始		
鏡餅作り	12月29日	10時開始
除夜の鐘	12月31日	23時開始
修正会	1月1日	10時開式

餅つきの手伝いは9時集合。手伝い・搗き手募集中です！ 除夜の鐘では、恒例の干支みくじを先着108名にお配りします。

併つきと余夜の鐘

正月準備の餅つきを、毎年十二月二十九日の十時から昼頃まで行っています。手伝いボランティアも募集中です。手伝っていただける方は寺務所までご連絡ください。山内諸堂に飾る鏡餅と、正月のお雑煮用の丸餅を作ります。参加者・参拝者には振る舞いも行いますので、是非お立ち寄りください。除夜の鐘は十二月三十一日の二十三時開始で十二時の一〇八撞目となります。恒例の干支みくじも先着一〇八名様にら記します。



■ 標として牡丹を植えました。

本堂裏に蛇口を整備

古佛眼山 龍藏寺
住 所 〒三四七一〇〇六八
埼玉県加須市大門町一八一五一
寺務所 午前九時～午後四時
電 話 〇四八〇一六一一〇八五〇
F a x 〇四八〇一六二一七九〇〇
会 館 〇四八〇一六一一〇八九二(金土日)
メール : info@ryuzoji.jp

本堂裏に蛇口を整備
仮設ですが、年内に本堂裏に蛇口（井戸水）を取り付けます。本設は本堂の基壇改修後となります。

後払いのお一人様向け
樹木葬墓のご案内

我建超世願 斯願不満足 必至無上道

毎日読んでいるお経の話をしたいと思います。俱会堂の椅子に毎日読むお経、これを日常勤行式といいますが、これをまとめた折本を備え付けています。ぜひ法事のおりに手に取ってご覧ください。その構成は三部構成になっています。

最初が序分。お香を焚いて道場を清め、佛様をお招きして、日頃の行いを懺悔します。次が正宗分で本文に当たります。最後が流通分、結びです。改めて佛様への帰依を誓い、共に極楽浄土に往生しようと決意を称え、道場に招來した佛様を讚えて、お帰り頂きます。この三部構成を明確にするために、区切りとしてお十念を称えます。

序分と流通分は儀礼的なパートですので、重要なのは正宗分。その中に据えられているのが四誓偈というお経です。その冒頭にあるのがこの言葉です。

この世を救う願を建てよう
そして必ずや悟りの境地に到達しよう
もしこの願が叶わないなら
私は悟りなどいらない

阿弥陀如来がまだ修行僧であった遙か昔、宝蔵菩薩と呼ばれた時代に建てた誓いです。阿弥陀如来は苦しむ人々を救おうと、四十八個の願を建てます。そして願いが叶わないのなら、成仏などで生きなくてよいと。宝蔵菩薩は成佛されて阿弥陀如来となつたのだから、この願もまた達成され現在も生き続けていると肯定されるわけです。

四十八の願の十八番目が、「私を信じて極楽往生を願い、私の名前を十回称える者は、全て極楽に往生させる」という念佛往生願であり、法然上人や親鸞聖人、また中国の善導大師が、これだと確信した救いの道です。

法事などで、なむあみだぶ なむあみだぶ と称える場面がありますが、まさにそれがこの願いの実践なのです。

(記 令和七年四月七日)

（記 令和七年六月一日）

愛していない人と会うなとも会うな

法句経にある釈迦様の言葉です。結婚式では使えそうにありませんが、含蓄のある言葉です。この言葉は続きます。

愛していない人に会うのも苦しい。

法教でいう「愛」とは愛欲、つまり他者への執着を意味します。執着の愛は見返りを求める愛と言ひ換えてもよいと思います。

夫婦げんかの原因を考えてみると、多くが見返りを求めて得られないことが原因ではないでしょか。

夫婦げんかの原因を考えてみると、多くが見返りを求める愛をお釈迦様が何と呼んだか、それが慈悲です。愛を越え、慈悲への到達を目標指すのが佛の道です。

愛を挟んで慈悲と反対にあるのが無関心です。深く愛することが禍の原因だとすれば、いつそ無関心にと、極端に向いてしまいかがちですが、それもまた我執、己への執着であると釈迦はいいままであります。無関心もまた、自分を守ろうと自分に執着した結果なのだと。

四十八の願の十八番目が、「私を信じて極楽往

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。

(記 令和七年六月一日)

その都度そのつど己を磨く

賢者は、順次に少しづつ
そのつどみずからが汚れを除く
鍛冶職人が銀の汚れを除くように

(法句経)

自分を捨てた先に慈悲と幸せの境地があると、釈迦は教えています。